(26)

氏名（生年月日）　永野　貞子（ナガノ　テイコ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与番号　乙第97号
学位授与の日付　昭和45年3月20日
学位授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**第1篇　非対称性重複奇形に関する解剖学的知見，特に脳について**
第2篇　単眼児の解剖学的知見，特に脳について
論文審査委員　（主査）教授　久保田くら
（副査）教授　飯沼　守夫，教授　森崎　直木

論文内容の要旨

研究目的

一卵性双胎児は，胎盤のみで結合し，二個体が遊離しているものと，二個体が結合しているもの（重複奇形）とに大別される．さらに二個体の発育が平等のもの（対称性）と，発育が不平等のもの（非対称性）とに分けられる．

著者は教室における重複奇形の研究結果と，副論文にもありますところの他の研究から，顔面正中部の異常と中枢神経系の形成異常に密接な関係があることに注目し，脳の内部構造について追究した．

本論文は2篇からなり，第1篇は寄生体の脳，第2篇は単体奇形の単眼児の脳について記述している．

研究材料および方法

材料は胎生8カ月の非対称性重複奇形の寄生体の脳と，胎生6カ月の単眼児の脳とである．脳は10%ホルマリン溶液に数カ月間固定，さらにMüller氏液に固定，セロイジンに包埋，45μ厚の完全なる連続切片を作製し，Weigert の髄鞘染色を施し，核牢赤で細胞染色をした．

主なる所見

第一篇，非対称性重複奇形の寄生体について，ほとんど頭部のみからなる寄生体である．顔面は，二個の眼，単一の鼻孔，口は吻をなし，下顎の形成はなく，左右の外耳は接近している．これは無嗅脳症と耳頭症の合併である．

脳髄は発育の悪い終脳と間脳のみが存在し，中脳，小脳，橋および延髄は全く欠損する．終脳は，正中矢状位の大脳縦裂により左右両半球に分離されているが，大脳縦裂の底は脳梁とは異なり，灰白質と白質とを含む脳回が両半球の間を横走する．各半球の後下部には側脳室，海馬および歯状回が認められる．髄質には有髄線維として線維状を呈するものは認められない．

第二篇，単眼児の脳について

顔面の正中に一個の眼球があり，左右の外耳は前下方にひきよせられ，外鼻，下顎の形成なく，顔面正中部に異常を認める．単眼症と無嗅脳症と耳頭症とを合併している．

脳髄は，終脳に属する外套，脳梁，脳弓，側脳室，透明中隔および嗅脳を欠如し，また脳幹における大脳脚および錐体を欠如する．

視床後部は左側のみ存在し，右側には認められず，したがつて左右対称性を示さない．

視床下部の視神経部を境に，頭方においては第三脳室の腹側部は正中部を欠如，なお外側にあるべき灰白質は正中で左右癒合する．これに反し，尾方においては正常である．

前脳の神経線維束，単一の視神経および両側の蝸牛神経根の髄鞘形成は未完成である．動眼神経根，滑車神経根，三叉神経根，外転神経根，顔面神経根，前庭神経根，舌咽神経根，迷走神経根，副神経根および舌下神経根が左右両側の核から出て，髄鞘の形成は完成している．内側縦束，台形体，外側毛帯，内側毛体および楔状束などに髄鞘の形成が認められる．

著者の研究は単眼，無鼻，無口および無下顎など顔面正中部の異常と中枢神経系の異常が密接な関係をもつことを明らかにした．

論 文 審 査 の 要 旨

本研究は，非対称性重複奇形児の寄生体および単眼児の脳を肉眼的顕微解剖学的に追究し，種々の所見を得た結果から，単眼，無鼻，無口および無下顎など，顔面正中部の異常と中枢神経系における異常とに密接な関係があることを明らかにしたものである．

一方，奇形に関する幾多の研究が今日にいたるまで重ねられつつあるが，なお成因について明らかにされていない．

本研究は形成異常の成因に対し，幾何の寄与をいたすものであると考えられる．

主論文公表誌

第1篇　非対称性重複奇形に関する解剖学的知見，特に脳について．

東京女子医科大学雑誌　第36巻　第5号 231～239（昭和41年5月）

第2篇　単眼児の解剖学的知見，特に脳について．

東京女子医科大学雑誌　第39巻　第10号 780～799（昭和44年10月）

副論文公表誌

1）単眼児の解剖学的所見．

東女医大誌　36（11）616～626（昭和41年11月）

2）非対称性重複奇形児に関する解剖学的知見．

東女医大誌　36（11）606～610（昭和41年11月）

3）無心体の解剖学的知見．

東女医大誌　35（3）244～251（昭和40年3月）